

# 弘大COI | ネクストのQOL 健診

## 国際標準規格で評価

### ISO 指針に優良事例で掲載

### 健康と幸福 世界貢献へ意欲

弘前大学COI-NEXT(コイネクスト)の取り組みが、国際標準化機構(ISO)の規格、高齢化社会―地域や企業等でウェルビーイング(心身の健康と幸福)を推進するためのガイドライン)に自治体の優れた事例として掲載された。評価されたのは大規模な住民合同健診、岩木健康増進プロジェクトで培ったノウハウを凝縮して開発した啓発型健診「QOL健診」その取り組み。COIネクストの取り組みが世界各国で活発化するウェルビーイング向上を後押しする。(稲葉智絵)



ガイドラインを手に、QOL健診の取り組みが国際的に評価されたことを喜ぶ村下教授

ガイドラインは昨年11月、高齢化先進国の日本が主導する形で初版が刊行された。

日本規格協会グループによると、世界中で高齢化が進む中、ウェルビーイングの維持、向上を目指し、生活の質や豊かさを評価するための指標開発の動きが活発化。ISOの専門委員会も、ウェルビーイングに関する指標開発を重要な課題の一つとして位置付けてきた。

ただ、多様な取り組みが行われてきた一方で、実践方法は共有されてこなかった。そこで社会的健康戦略研究所や産業技術総合研究所などが協力し、手探り状態だったウェルビーイング規格の開発を提案。日本をはじめカナダ、スウェーデン、オーストラリアなど約20カ国の専門家が参加したプロジェクトが立ち上がり、2021年から本格的な開発が進められた。COIネクスト拠点長兼学長特別補佐兼健康未来イノベーション研究機構長の村下公一教授が検討段階から国内

委員会に参画し、情報提供などをしてきた。

ガイドラインには日本ならではの視点で構築された健康経営の要素や、多様な組織で活用できるウェルビーイング推進の実践方法などが盛り込まれた。併せてガイドラインに沿った国内事例を掲載。自治体の優れた取り組みとして、COIネクストのQOL健診と活動内容などが4ページにわたりに紹介された。

QOL健診は、検査項目を「メタボ」「ロコモ」「口腔保健」「うつ病・認知症

の四つの領域に絞り込み、健診と結果判定、啓発まで即日で実施する。昨年は明治安田生命保険相互会社(本社東京都)が参画して全国への普及が始まった。海外支援も進行中で、一昨年からベトナムやフィジーの医師らの研修を受け入れ、ノウハウを伝授している。村下教授は「20年かけて築き上げてきた岩木健診のノウハウが詰め込まれた弘前モデルのQOL健診が、ウェルビーイング推進の世界標準になったことは大変喜ばしい。地域のみならず国際貢献につながるため、活動をさらに発展させていきたい」と力を込めた。



QOL健診でロコモに関わる歩幅の測定を体験するベトナムの医療関係者。2023年7月20日、弘前大学